

(別紙 2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 12 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4 2 7 0 5 0 0 4 9 1		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム ライフ		
所在地	長崎県大村市宮小路 2 丁目 1408 番地		
自己評価作成日	H 23 年 11 月 1 日	評価結果市町受理日	H 24 年 1 月 4 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-801 長崎県島原市高島 2 丁目 7217 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 23 年 12 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

診療所併設と言う事で利用者様や家族様にも安心して日常生活を過ごしていける。
緊急時の対応も医師・看護師と密に連絡をとり対応できる。
外部ボランティアによる折り紙教室で折り紙や歌やお話をして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念に「医院併設」を掲げられているように、医療との連携をサービス提供に反映させ利用者や家族等の安心につながれている。特に利用者の健康管理や指導、重度化や終末期の事業所内での対応、夜間時の対応など高齢者にとって病に関する不安は、長年地域医療に携わってこられた母体医院との信頼関係の延長線上に「安心」が提供されている。又、管理者は、事業所の課題にも気付かれており、接遇マナーに関する研修の定期的取り組みやそれを反映した指南書を事務所の冷蔵庫に掲示し、業務の振り返りや意識づけを間接的ではあるが取り組みをされている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を復唱し、理念を共有して実践につなげている。	理念のキーワードは「医院併設」「安心感」「ゆったり」「自分らしく」「地域の一員として」であるが、根幹に【余裕・ゆとり】につながる取り組みで実践に反映されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事に出かけて行ったり、毎月第一月曜日に地域の方が折り紙教室をして利用者様と交流している。	町内会に入会されており、広報の回覧や行事等への参加をされている。理念に謳われているように地域医療としての母体の功績は地域に浸透しているが、認知症対応型事業所としての交流が受身の姿勢に偏っており、地域で必要とされる活動や役割を担っていく積極性が不足しているのが、今後の課題である。	事業所が業務をとおして培ってきた能力を地域還元することで地域とのネットワーク作り等に反映されることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と夜間対応の消防訓練や病院との合同で避難訓練の参加も呼びかけて実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回運営推進会議を行い報告や意見交換を行っている。	当初、参加するだけのメンバーも回を重ねるごとに積極的な関わりの姿勢で臨まれている。特に、「訓練に来たが、何か役割を持って参加したい」のメンバーの一言は、事業所にとっても大きな一歩である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度介護相談員の方が訪問されるので、利用者様と会話されたり職員との意見を交換している。	事業所の実情やケアサービスの取り組みなど運営推進会議を通じた情報提供以外にも、職員の交代や入所待ちなど身近なことでも双方向の情報交換をされている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄關を施錠しない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしないケアを目指されており、研修等へも参加し日々の業務の振り返りへつながっている。身体拘束は対応の如何で拘束につながることも理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等 講習会に参加し勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事をプリントして職員間で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約など管理者より説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けいつでも対応できるようにしている。アンケートを送付し運営に反映させている。	昨年の外部評価受審後の23年の1月と3月にアンケート調査の取り組みをされたが、回答いただいたアンケート内容を分析し、その結果の報告に至っておらず、折角の貴重な意見が活かしきれていなかった。	アンケートに回答した家族のエネルギーに応える姿勢が重要である。まずは分析して、褒めて頂いた事は励みとなり、忠言頂いたことに対しての事業所の検討結果など報告されることが期待される。更に、事業所にとってのアンケートの役割が明確になり、次につながる事ができる取り組みとして継続されることが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開催し職員の意見を聞く機会を設け反映させている。	意見や要望が出しやすい取り組みの1つに、公休希望ノートを活用されており、勤務シフトに職員の希望が反映されている。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ受験や福祉士受験を薦め、向上心を持って働ける環境や条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、研修会には積極的に参加してもらうように勧めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	院内に教育委員会があり勉強会を年四回開いてサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の意見を聞き入れまずは安心感を保つように努める。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の意見・要望を聞き入れ信頼関係と安心感を保つように努める。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と御家族様がまず必要としている支援を見極めることが出来る様に対応に努める。		

18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常生活でコミュニケーションを取りながらお手伝いしていただく事により暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と利用者様の会話等から聞こえる言葉を伺い共感する事を大切に良い関係を築いている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が入所前より利用されてた理容店や歯科医等に通えるように支援している。	地域の仕来りや行事も大事にされており、正月には近くの皇天宮に初詣され、居室には餅を飾り、職員手作りのお節料理で新年を過ごされている。又、毎月1日と15日には神棚の榊柴と水を変えられ、利用者と一緒に祀りされている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースであるリビングでは席替えをしたりして退屈されないように風船バレーなどをして余暇を過ごし支え合えるように支援に努めている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を確認しながらこれまでの関係性を大切に必要に応じて相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者ひとり一人の希望、意向の把握に努める。困難な場合は表情を観察しながら本人本位に検討している。	事業所のケアサービス提供の基本に「本人のしたいことをしてもらいたい」があり、日常生活を通した利用者とのコミュニケーションや触れ合い、観察などを思いや意向の把握につなげられている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境などを知る事で利用者様の生き甲斐を探り施設での生活にも取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りの記録で毎日の状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族・利用者・職員間での話し合いで共有し最も良いと思われる介護計画を作成している。	担当職員が毎月モニタリングしており、定期的または随時の担当者会議では、前回の介護計画書とモニタリングシート、担当職員の話を照合しながら利用者本人のニーズの把握につながっている。担当職員以外の意見・気づき等を表出する場面としての個人記録が日誌化されており、計画作成担当者も課題として捉えられている。	記録に時間を費さず、介護計画に沿った実践状況やその都度のモニタリングなど個別記録に関する必要な要件を職員と一緒に検討され、個別記録が介護計画の見直しや職員間の情報の共有につながる記録となることに、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や言葉や気付きがあれば個別記録に記入し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてニーズに対応し既存のサービスに促われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方が折り紙教室を開いてくださり折り紙や唄を歌い皆で暮らしを楽しんでいるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所併設なので本人や家族様受診希望があれば受診し適切な医療を受けられるように支援している。	理念の「医院併設」「安心」の具現化として、母体医院で3ヶ月に1回定期検診の取り組みをされており、利用者の健康管理・指導につながっている。又、専門科目は継続したかかりつけ医での受診支援である。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時での相談や内線による連絡を密にとっている。利用者様受診の際は職員が同行する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所併設なので状況を伺ったり情報交換をして病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に御家族様に話すようにしている。状態変化があればその都度、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し医療機関と連携に努める。	一応、契約時に重度化や終末期の対応場所を聴き取りされているが、その都度の話し合いで本人・家族の希望を取り入れた対応をされている。事業所ではドアー一枚で医院とつながっていることもあり、点滴等の対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は毎日復唱している。急変や自己発生時の備えは院内研修やミーティングで実践しえいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間避難訓練や病院との合同非難訓練を定期的に行い初期消火大会にも参加している。地域との協力体制を築いている。	消防訓練をととして、居室の利用者のネームプレートに利用者の歩行状態についての表示と裏面に救出済み記載の助言・指導を受けられ実行されている。	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	- 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 - 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重を持ち敬いの心を持ち言葉掛けやプライバシーを損ねないように対応している。	生活歴を大事にされ、利用者に応じた環境作りや対応を心がけられている。利用者の個人情報に関する記録書等は、特定の場所に適正に保管管理されている。
37		- 利用者の希望の表出や自己決定の支援 - 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けで本人の希望など思いを聞き入れ自己決定できるように支援している。	
38		- 日々のその人らしい暮らし - 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先せず一人ひとりのペースに合わせて希望に添って支援している。	
39		- 身だしなみやおしゃれの支援 - その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれをして行事があるときには化粧して参加したりする。	
40	15	- 食事を楽しむことのできる支援 - 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に何が食べたいのか尋ねてみたり食事の準備も手伝ってもらう。お茶碗を洗ってもらったりしている。	テーブルを介助の必要な利用者と自立摂取の利用者に大別し、相性なども考慮した席順で利用者の気兼ねや卑屈感などにも考慮され、会話や支え合いにつながる食事環境である。ミキサー食の食事介助も食材の説明を交えながら支援されており、誕生日にプレゼントでいただかれて使用されていた利用者の箸もトレイに添えられていた。
41		- 栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日表に書き入れ状態を把握し習慣に応じた支援をしている。	
42		- 口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促がしている。介助が必要な人は対応している。歯科往診で清潔保持も心掛けている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間の記録や習慣を活かしてトイレでの排泄を促すように自立に向けた支援を行っている。	やむを得ずオムツを利用されている場合は、オムツ交換が処理作業にならないように定期的な対応を心がけられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を摂取し食事やおやつに繊維質の多い食材を取り入れる工夫をしている。また服薬の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や気分に応じて入浴の日程を調整している。歌を唄ったりしてリラックスできるように支援している。	入浴前のバイタルチェックで利用者の健康を確認され、入浴の可否の判断につながっている。又、浴室との温度差にも配慮され、シャンプー時の頭皮マッサージや入浴剤の使用で気分の爽快感にもつながっている。また、菖蒲湯などの行事湯に関しても利用者からそれにまつわる話を尋ね、聞かれるなど回想場面作りもされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて家族様より寝具の持ち込みがあり気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に目を通し個々の服薬の把握をしている。また臨時薬も医療機関より指示を受け支援に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共存して頂けるように生活の中のできることをやしていきたい事を理解し一緒に行動して楽しい日々を過ごしていけるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援している。	家族が訪問されたときは、利用者と一緒に散歩やマッサージ等に連れ出してもらい、絆の確認や気分転換など家族のマンパワーをケアに活かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や本人の希望がある時は預かり金として金庫に保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話したいと希望あれば対応している。ライフ新聞の毎月発送し様子を記入したりしている。年賀状は本人と職員で合作している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃・換気・室温等不快感がないように配慮している。共有スペースに季節の花を飾り観賞をしたり季節感を取り入れてる。	個人宅を改装された事業所のため、食堂から居室へ続く廊下は車椅子1台が通れる幅なので手すりの位置がちょっと高めになっていたりハード面での不具合はあるが、反面、人と人の距離を近くに感じる家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自席が決まっている。気のあった人との会話をして思い思いに過ごせる。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや写真を持ってきて飾っている。心地よく過ごせる様に工夫している。	利用者の居室内に家族の趣味の物や作品等が置かれており、親子で過ごされたり、連れ合いへの思慕の時間を川柳作りで紛らしたり、本人が気兼ねなく、自分を取り戻す居室環境作りに努められている。職員管理の下、微量ではあるが、夜、居室で酒を嗜まれる利用者もあり、家庭での延長線上の支援でもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事やわかることを活かしている。洗濯物干しや居室の掃除など自立した生活が送れるように工夫している。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない